



2026年5月15日

各位

会社名 大黒屋ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 岩岡 迪弘
(コード番号:6993 東証スタンダード市場
問合せ先 財務経理部マネージャー 今長 岳志
(TEL 03-6451-4300)

2026年3月期通期連結業績予想値と実績値の差異に関するお知らせ

2025年10月31日に公表いたしました2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の通期連結業績予想値と本日公表の実績値とにおいて差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期連結業績予想数値と実績値との差異について

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益	包括利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,415	百万円 △600	百万円 △723	百万円 △677	円 銭 △3.23	百万円 △683
今回実績値 (B)	11,472	△652	△881	△2,053	△5.59	△914
増減額 (B-A)	1,057	△52	△158	△1,376	△2.36	△231
増減率 (%)	10.1%	—	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	10,232	△904	△1,076	△968	△6.58	△1,004

2. 通期連結累計期間における差異発生 の主な理由

2026年3月期の通期連結業績につきましては、2025年10月31日の予想（以下「前回予想」といいます。）と比べて、売上高は、12月の第三者割当増資及びリファイナンス実施により、商品在庫積増し資金を確保したことから、貴金属の市場向け売上加え、店頭陳列在庫増に伴い店舗売上也増加に転じたことから、前回予想を上回りました。

一方、利益面では、過去の不良在庫処理を実施したことから、営業利益・経常利益ともに前回予想を下回りました。また、英国孫会社の外部売却に伴う為替換算調整勘定取崩損1,278百万円の計上により、親会社株主に帰属する当期純損失も前回予想を下回りました。12月以降は経費適正化も進めており、これらの諸施策の実施は今後の経営基盤強化につながるものとなります。

以上